高校阿倍野新聞

発行所
大阪市阿倍野区阪南町一丁目30番34号
大阪府立阿倍野高校
新聞部
編集責任者　橋村宏一

29日は文化祭 0ことも2,3

実りある文化祭を
日頃の成果を発揮しよう

本日より二日間第二十九回文化祭が開催される。この日のために文化祭実行委員会・文化クラブ・一般参加の活動が行われてきたわけである。この中でも文化祭実行委員会は「マンネリ化打倒」を目指し活発な活動を続けてきた。しかし、中には文化祭に積極的に参加しなかった生徒も少なくなく、今後全員参加による文化祭が望まれる。

この文化祭の準備は、文化部会の手で今年の三月から始まっていた。にもかかわらず、文化部会がまず最初にしなければならない仕事である文化部会基本方針原案が出来上ったのは、六月三日であった。これは昨年よりも約一ヵ月遅れている。昨年より遅れた理由をあげてみると、春休み中に文化部会を開くはずであったのが、その当時まだ文化部会内がまとまっていなかったため人材が集まらなかった。また一学期に入っても、殆どの文化部員がクラブに入っていたため、クラブとの両立等の問題で、なかなか文化部長が決まらなかった等である。

文化部会員は、懸命に努力したのだが、この基本方針が出来るのが遅れた影響はかなり大きかったようだ。まず第一に実行委員会の結成が遅れた。そのため一般参加運営委員会の方では一学期中に、一部のクラスの出し物が決定しなかった等いい。」というような形にして、「マンネリ化打倒」を目指し活発化を目指した。

このようなことや、フォークダンスの練習、アーチの制作等、色々なことを文化部会を中心に、文化祭実行委員が行って来て、ようやく文化祭が開かれた。

ここで少し阿倍高の文化祭というものを考えてみよう。現在の文化祭は、一部の生徒と、教師が行っているように感じられる。確かに文化部会はよくやっているし、また一部の生徒は、文化部会によくついて行っている。しかし大半の生徒は、自分から進んで文化祭を行なおうとせず、まったく他人まかせなのだ。だがこれが、阿倍高生のとるべき態度だとは思えない。その証拠に同じ自治会活動でありながら、クラブ活動は盛んである。結局みんなは文化祭のことを真剣に考えていないのだ。だから来年の文化祭こそは文化部会を中心に全校生徒が一丸となって、すばらしい文化祭を作ろうではないか。また教師も、生徒がより深く話し合いできるように、もっと助言してほしいものだ。

〈一年生まわり〉

文化部会では、六月十九日から二十九日にかけて、「一年生まわり」ということをした。これは今年初めての試みで、一クラスずつ放課後二十分程度の時間に文化部会員数名により、一年用部報の配布説明を行った。この目的としては、「文化部会基本方針の浸透、文化部会の説明、文化祭の説明」である。このことにより、文化部会の存在を意識してもらい、また、文化祭を成功させようとしたわけである。この「一年生まわり」も、基本方針の遅れから夏期行事の委員会と重なり、説明の最中に、生徒が多数委員会の方へ行ってしまったことや説明のまずさから、効果は大きくはなかったと思われる。しかしこの「一年生まわり」を今年から始めたということは文化部会にとって大きな進歩であり、マンネリ化打倒（一年のうちから話し合いをするよう指導する）等に大きな意味を持っていると考えられる。

文化祭実行委員会のメンバー

紙面紹介

2面・本四架橋とその住民意識
他校訪問
3面・大学入試制度
体育祭
家庭クラブ
4面・京都路
クラブ報告
ざっくばらん

部説
進学に目的を
HRも活発に

大学生の中には、授業をサボって喫茶店などに行く者、講義を聞き流す者、ただ、行っているだけという者が少なくない。そして、卒業して後悔することが多いというのが現状だ。さて、これはどこに問題があるのだろうか？　それは、自分が何故大学に入るのか、よく考えずに入学するからだ。

諸君は何故、大学へ行くのだろうかということについて、真剣に考えたことがあるだろうか。諸君の主な理由として、①自分が望む職業につくため、②大学でやりたい勉強があるから、③親が勧めるから、④みんなが進学するから、という四つが上げられるだろう。

まず、自分が望む職業につくためには、大学を卒業する必要がある、という場合について考えてみよう。例えば、A君のつきたい職業の資格が、大学を卒業すればとれるとする。このA君は、資格をとりたいのだから、大学へ行く意義がある。

もちろん、大学でやりたい勉強がある場合も、有意義である。また、大学は「人生と学問を勉強する場所」であるから、これで当たり前なのだ。

しかし、残った二つの理由で、大学に進学することには問題がある。大学へ行けという親は多分大学を出で、少しでも高所得の職業につき、安定した生活を送ってもらいたいと、思っているのだろう。しかし、もしその人がそんなふうにして、一日一日を充実させることができるだろうか。

また女子の中に、一種の嫁入り道具として、大学に入ろうとする人がいるし、男子の中にも大学を卒業していないと、恥ずかしいと考えている人もいる。だがこの人達は大学というものをどのようなものと考えているのだろう。

もしこの人達にやりたい仕事や、行きたい学校があれば、将来悔いのないように、好きな道に進んで行くべきである。誰がなんと批判しようと、人生の主人公は自分自身なのだ。

また、みんなが大学へ進学するから行くというのは世間の目を気にしすぎているのではないだろうか。もし、世間に自分の生き方まで左右されたなら、自分自身というものはぬけがらで、生きている価値がなくなる。そして、あとで自分がぬけがらと気付いたときに、人生の破滅を感じて、自殺をしたり、非行に走ったりするかもしれない。

大学は、その人の人生を、決定すべきところではない。大学でしか体験できないものを得るために行くべきものなのだ。要するに大学は「人生と学問を勉強する場」なのだ。それには、大学を間違った目で見ている世間にまず、打ち勝たなければならない。自分が進もうとした道を、親が反対するなら、自分が納得するまで話し合い、その上で自分の進むべき道を決定すべきである。つまり自分の強い「志」を持って、大学を受けたいものだ。

現在阿倍高生は、H・R活動よりもクラブ活動を重視しているという人が多い。このような傾向が見られるのが必ずしも悪いとはいえないが、H・R活動もクラブ活動と同様に重視されるべきである。（ここでとりあげるH・R活動とは授業以外のクラス単位で行なわれる活動のことである）。

では、どうしてH・R活動が軽視されるのであろう。大部分の人は、クラブ活動の方がおもしろいから、と答えるであろう。

クラブ活動がおもしろいのは、一つの決った目的を持ち、その下でみんなが活動しているからである。無論、クラスにも何らかの目的がある。例えば、つい先日まで「文化祭を作り上げる」という目的があった。しかしそれにもかかわらずH・Rの利用のまずさから、なかなかクラスの意見がまとまらなかった。

また、H・Rの時間を堅苦しい会議の時間と決めつけて、そのような学校行事に関連する話し合いのない時でさえ、席がえに当ててみたりして、決してクラスでまとまった行動（例えばクラス単位でハイキングに行くなど）をするための計画をたてたりすることに使わない。このため、クラスでまとまってリクレーションを楽しむことがないからその楽しさをクラブに求めるのである。

ここで考えなければならないのは、はけ口をクラブに求められる人はいいが、そうでない人、即ちクラブに所属していない人は、どこに学校生活の楽しみを求めることができるだろう。学校生活の中ではH・Rに求めるしかないのではないだろうか。これがH・R活動を活発にしなければならない一つの理由である。

他の理由としては、いうまでもなく、H・Rは自治会に直結しているからである。なぜなら、H・Rの停帯は自治会を停帯させる一つの大きな因子となるからである。

そこで、どうすれば活発になるだろうか？まずクラスの中で、一人か二人クラスの人を引っぱっていく人が必要である。なぜなら、現在会議というと、もっぱら静まりかえり、意見をのべる人もほとんど決っている。だから、みんなにも参加してもらうには、リーダーシップをとる人が必要となってくるからである。

また、言うまでもないことだが、お互い我をはらずに、クラスのよい雰囲気にとけ込もうとすべきであり、一つのこともする上では、クラス員みんなで協力し合うことも大切である。この他としてはさきほども言ったようにH・Rの時間は、堅苦しい会議だけの時間ではないことを考えて、リクレーションなどに利用して、H・Rのよい雰囲気を作って行くべきである。

H・Rの時間というものは、堅苦しい会議の時間としても活用しなければならないが、よりよく活用するには、まずよいあるいは楽しい雰囲気を作らなければならない。そのためにも、生徒全員は、共に協力し合い、各H・R活動を活発にしたいものである。

新しい窓
校舎を大切に

▼近藤文化部長の話し▲

五十一年度、文化部会基本方針で、H・Rの活発なる話し合いを強調しました。それは、現在のH・Rの不活発さ、自治会活動への無関心さから、これを打開するために考えられたものです。

そこで、文化部会は文化祭という行事を成功させる中で、それを高めてもらおうと考えました。なぜなら文化祭に参加していくのには、必ず話し合いを持たずにはできないからです。そして、その中で、自分の意見を理解してもらって、また相手の意見を理解していくうちにクラスの親睦が高まり引いては、学校内における様々な問題に対して、話し合えるH・Rができるのではないかと考えました。

そして、基本方針の検討日頃見い出されない個人個人の独創性を発揮してもらうことを望んで、コーナー決定にはいりました。コーナー決定では、やはり飲食コーナーが多く出ましたが文化祭について真剣に話したクラスや、展示、映画等も出ました。

一人の自治会員だという自覚から、H・Rの活発化へ、そして、文化祭という行事の成功を願って、本当にやって良かったと思える文化祭にしましょう。

◇　◇　◇

夏休み中、諸用で登校していた人は、気付いていたことと思うが、この度、一階を初めとして二・三階のおどり場などの窓が、新しくアルミサッシに変えられた。見るからにスッキリした感じで明るくなったのは良いのだが、その反面、戸手を回すとサビついた様な音と共に開く、あのいかにも阿倍校らしい窓が校舎から姿を消して行くのは少々寂しい気もする。

この工事は、昭和四十六年に計画されて以来、四十八年、五十年、そして今年五十一年と三回行なわれた。今回だけでも千六百万円もかかったので、一度に改善することはもちろんできなかった。このため、学校側は、工事をおよそ四回に分けて進める予定で今回三回目までに、校内の窓の七％が改善された。

ところで、我々生徒は、校舎に対する不満が少なくないらしい。

しかし、校舎が古く汚なくなっていくのは、月日のせいだけだろうか。校舎を利用している我々にも、責任がないとはいえないであろう。一日二十四時間中に我々が学校にいるのは、軽く見積もっても八時間。一日の三分の一をこの学校で過ごしているわけだ。いわば校舎は、我々にとって生活の場である。各自の勉強部屋同様に美しくして当り前である。ここに、日本人の『自分のものは大切に、公共のものはその次に』という気持ちが表われている様に思う。

しかし、このままでよいのだろうか。知っている人も多いと思うが、校舎の耐久年数はおよそ五十年、それにもかかわらずこの校舎はすでに建設されてから五十四年もたっているのである。従ってこの校舎がこわれないという保障はない。また、府の予算の都合により、建て替えの見通しは、ありそうにもない。

考えてみると、机・椅子・黒板から廊下・階段に至るまで一番多く利用しているのは我々生徒である。それなのに我々の校舎内の行動には校舎の古さを考えてないものが多すぎる。雨の日の校内練習など。

これからも、もちろん月日は流れ、校舎もますます古く汚なくなってゆく。しかし、我々の校舎に対する自覚がこのまま薄れ行く一方ならば、どうしようもないのは目に見えている。ここで、日頃、お世話になっている校舎のありがたさを考え直してみるべきではないだろうか。いや、今こそがその時である。

盗難被害増加

近頃、非常に盗難が多い。体育、芸術の授業など、教室を移動する時、かばんの中の財布を盗まれたり、貴重品を盗まれたりする。

また、ロッカーの中の物が盗まれたり、授業料が盗まれたりすることも多い。

そこで我々新聞部は、その原因を考えてみた。

盗難について調べてみると、一番多いのは、やはり現金だった。修学旅行の積み立て金、授業料が多く盗まれている。そのあとは、教科書、辞書と続く。時間別に見ると、ほとんどが、教室移動の時であった。

一学期間だけでいうと、六月末に集中している。

担当の先生は、「盗まれたと届け出てくれても、自分は、何もしてあげられず、とても残念だ。」と言っておられた。

これについて校長先生は「寂しいことだ。」と述べ、修学旅行や、夏期行事等の大金は、銀行振り込みにするなど、何らかの方法で、学校に持って来なくても良いようにしたいとおっしゃった。

しかし考えてみると、盗まれた側にも責任はある。例えば、授業料は、朝来た時に納めることになっているが、それにもかかわらずいつまでも持っているから盗まれたりするのだ。

ロッカーにしても、本来鍵をかけておくべきものなのだから、開けている方も悪い。

これに関連して、大金を持って来た時は、先生にあずけておいてはどうか、という意見も出た。しかしこれも考えものである。

学校というところは、他の社会と違って、必ずしも防犯の設備が、完全とは言えない。そのため、学校ばかりを狙う、いわゆる「学校あらし」も出てくる。

阿倍高にも、去る七月十五日、午後十時半頃から、翌日の午前七時頃にかけて泥棒が入った。

場所は、職員室、作業室、国語科準備室の三ヵ所。窓に防犯ベルを取り付けている事もあってか、いずれも窓をあけず、ガラスを割って侵入していた。盗られたものは、先生方の個人的な現金、五万八千七百五十円入った場所にしても、盗られたものにしても、我々生徒に直接関係はないが、あまり気分の良いニュースではない。

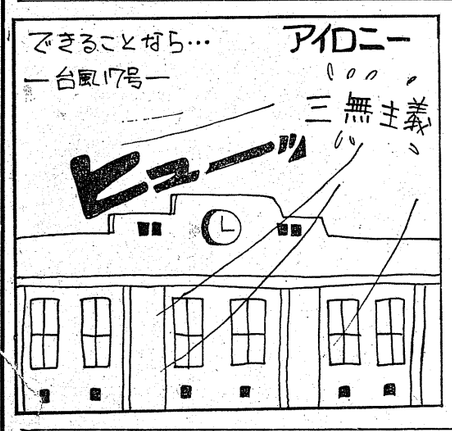
このことから見てもわかる様に、先生にあずけている様に、安心できる。というわけにはいかない。

自分の事は自分で責任を持て――と良く言われる通り、これは自分で防ぐしかないのだ。校長の言う様に寂しい事だが、持っている人が気をつけなければならない。

我々は、もう高校生なのだ。口先だけは、一人前なのに、その反面、何もかも置きっぱなし、開けっぱなし、かばんも放り出している様では、盗まれても、文句は言えまい。

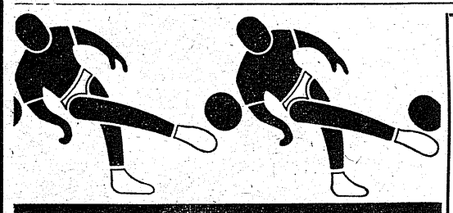
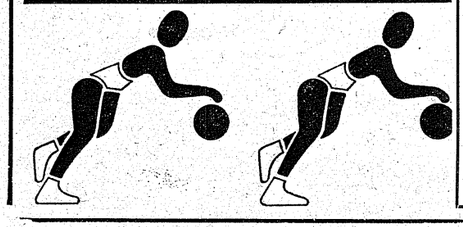
盗まれた側も、金額が少ない時等は、届け出ない事が多い。しかし、金額の多少に関係なく、すぐに届け出るべきだ。そうしなければ校内の盗難被害は、増えるばかりである。

事が起こってから、とやかく言ってもはじまらないのだ。まず、身のまわりを整理し、やるべき事をして事前に防ぐ事を考えよう。



針小棒大

文化祭といっても、アベ高の文化祭は祭典と呼ぶにはお粗末すぎるし、かといってお祭り騒ぎができる程の自由もない。平凡な構想を消極的に検討して、なんとなく打ち出しているクラスが殆どだろう▼毎年毎年飲食店やバザー、お化け屋敷が軒を並べ、同じようなことをやって人を集めていても、その場しのぎの見せ物にしかすぎない。確かにクラスが同じ目的で動く、ということは大いに結構なのだが、それにしても、無意識のまま行動が統一されるというのはあまり感心できることではないように思える▼文化祭にあたって文化委員がクラスで何をやるか希望を求めても、喫茶店ぐらいしか出てこないのは悲しい現実である。また、やきとり屋とかパチンコなどの意見を出しても、渋い顔をしているような教師にも何か腑に落ちないものを感じる▼どこもかしこも、喫茶店やお化け屋敷をやるくらいなら、いっそ一般参加などやめてしまっても差しつかえないのではないだろうか。こんな変化のない祭典を文化祭と呼ぶくらいだから、アベ高の文化の程度も知れたものである▼また『行動の均一化』というものが、このように実に自然に行なわれているということも、非常に恐しいことに思える。何事にも好奇心あふれる我々の年代層が、こうもまわりからとび出ることを嫌い、関心のあることでも口をつぐんでしまうのは一体なぜだろうか▼考えてみると、これはひとつには日本人の物の考え方に、つまり、目立つことは極力さけ、遠慮深くいつも控え目に暮らしている日本人にとって、無言の連体感みたいなものが特に強いような気がするのである。また、でしゃばりと言われることが、学校のような共同生活の場では最も嫌われるのも日本ならではのことだろう▼今まで日本は、明治維新以後高度成長などと言ってずっと欧米諸国の模倣ばかり続けてきた。しかし、昔からある日本人独特の礼儀・しきたりみたいなものは、頑固にも大人の社会には残存している。それを背のびばかりしたがる今の高校生が影響を受けても、何の不思議があろうか▼我々はこの高校生活を純粋に生き、限りある青春におもいっきりひたりたいと思う。でも、大人たちが常識と呼ぶものは余りにも我々には納得しがたい。そんな納得できないものをおざなりなまま常識と呼べるようになった時人間は純粋さをまたひとつ失うことになるような気がしてならないのだ。


各種スポーツ用品
ナカジマスポーツ店
帝塚山三丁目電停前　TEL 671-2189
（御来店の際は阿倍野高校とお申出下さい。）


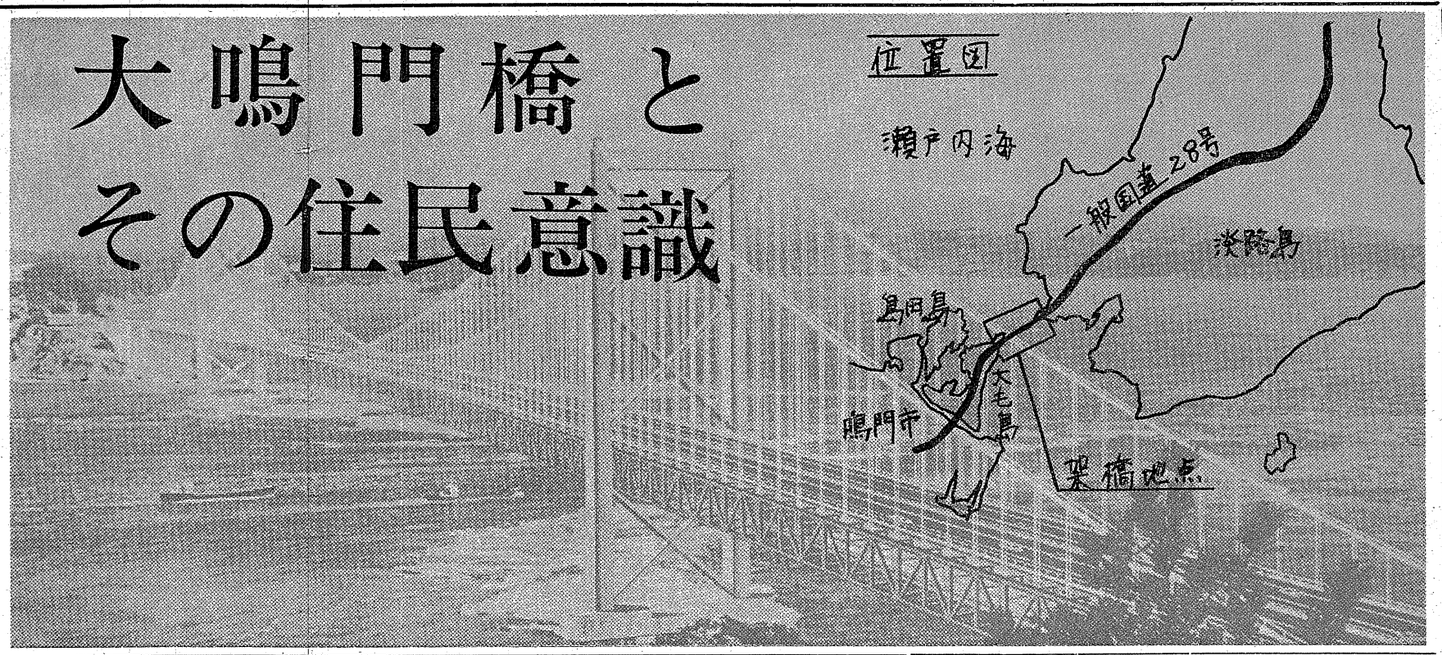
苗代文具店
親切
安豊
さ富
三拍子そろった文具店
阿倍野区阪南町1―27―25
電話（622）5220

クラプトン「あべのアポロの三木楽器知ってるかい？」
ディラン「ああ、あの親切で明るい店だろう？」
ク「3Fの楽器もいいよ今度ギターを買おうと思うんだ」
ディ「それじゃ僕は2Fでボブ・ディランのレコードを買おう」
三木楽器アポロ店
2Fレコード部　TEL 649―4167
3F楽器部　TEL 649―0156
〒545 大阪市阿倍野区阿倍野筋1―5―31
近映レジャービル　アポロ2F・3F
（第1・第3木曜定休）

阿倍高生の憩いの場
安くて，おいしい
校内食堂
みのわ
セルフ・サービスですよ

本四架橋とその住民意識
南舎三階西端
2―2にて
新聞部

大鳴門橋とその住民意識



東洋最大の規模 架橋技術の結晶

大鳴門橋。この橋は神戸―鳴門ルート、本州四国連絡架橋の内の一つである。

この神戸―鳴門ルートとは、神戸市垂水区で国道二号バイパス（第二神明道路）から分かれ、四キロメートルの明石海峡を越え、淡路島を約六十キロメートルにわたり縦断し、そして一・六キロメートルの鳴門海峡を渡り、鳴門市で国道十一号バイパスに連絡する高速有料道路と新幹線の併用ルートのことである。またそのルートの長さは約八十一キロメートルで工費は六千二百二十億円（昭和四十七年四月単位）である。

神戸―鳴門ルートの一部分でもある鳴門海峡に建設される大鳴門橋は、全長千六百二十九メートル、中央径間（この中央径間の長さで橋の規模を比べる）八百七十六メートルで、関門橋（中央径間七百十二メートル）より一廻り大きいもので、東洋最大の架橋となる。

この架橋には、既に完成している関門橋の技術が生かされるが、新幹線との併用橋ということで、関門橋を遙かに上廻る大規模な架橋になるため、関門橋以上の技術を要することになる。

▼大鳴門橋の構造

まず上部構造を紹介しよう。ケーブルは吊橋にかかる力を支える役目をするもので、一本のケーブルは直径約五ミリメートルの素線を二万八千万本束ねたものである。また、左右にあるケーブル全部に用いられる素線をつなぎ合わせると、地球を約二周半する長さになる。そのケーブルから主として鉛直の力を受けてその力を橋脚に伝えるのが塔である。この大鳴門橋には主塔二基、側塔一基と合計三基の塔が使われるようになっており、主塔一基にかかる鉛直力は、約四万八千トンにものぼる。橋の上の道路面を直接支える補強桁はトラス（幾つかの材をその両端で互いに結合させた単位形を更につなぎ合わせて形成された架橋の呼び名）形式を採用し、また、路面の中央部と両側に風抜きを設け、風に対する安定性を向上させている。

次に下部構造である。ケーブルを定着させる橋台は海底を掘ってコンクリートの魂りを岩盤の上に固定させる。そのコンクリートはケーブルから受ける大きな引張力に対して自重で安定を保つために、橋台二基分で、約二十三万平方メートルもの量を必要とする。塔の基礎となる橋脚は、塔に加わる力を岩盤に伝える役目を果たす。大鳴門橋の塔の基礎は柱を何本か立てて基礎をつくる多柱基礎である。

▼鳴門海峡の自然条件

・幅（大毛島―淡路島間）約千三百キロメートル。

・最大水深九十九メートル約。

・潮流速度（秒速）四十メートル。

・外洋に直接面しており、台風の進路の一地点である。

▼耐風性及び耐震性

この大鳴門橋は、秒速三十七～五十メートルの風速を予想して設計されており、予想された風速の一・二倍までは、耐えられるようになっている。また、今日までに日本で発生した程度の地震なら、充分に耐えられるようにも設計をしてある。

▼橋の完成後の船の航行

鳴門海峡をあまり大型の船が通らないこともあるが橋の下を通過できない船舶が出てくるという心配はまずない。また船の航行を安全にするため、照明装置や霧信号などの航行援助施設や船舶の橋脚などへの接触を防護するための施設等の研究を行なっている。

▼環境の保全

この大鳴門橋の構造物周辺の修景などに努め、鳴門海峡の自然美と大鳴門橋の人工美との調和をはかるようにしている。

また、海中における工事による海水の汚濁を防ぐため、海底に穴を掘るときは穴を掘る現場にパイプをすえつけて濁った海水を吸い上げて、水産試験場できれいな海水に戻してから海に流すなどの措置を講じている。

▼架橋資金の構成及び

地方公共団体別の分担

日本四国連絡公団では、連絡橋の建設に必要な資金は、国と関係府県市の出資金と借入金（国の財投資金・民間資金）とに頼っている。調査段階における国と関係府県市の出資金や借入金の負担比率はそれぞれ二分の一づつであったが、この負担比率のままで建設段階に入った場合、関係府県市の負担額は、莫大な額となり、地方財政の圧迫になるので、地方負担の軽減を国に対し強く関係府県市が要望した。その結果、昭和四十八年度から出資金、貸入金と供に、国が三分の二関係府県市が三分の一という比率に改正された。

また、地方公共団体の事業に対する昭和四十八年以降の地方負担は、ルート別に関係府県市が分担することになった。大鳴門橋を含む神戸―鳴門ルートの関係府県市とその分担比率は、左の通りである。

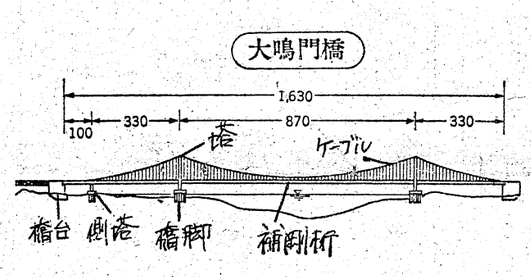
・兵庫県　三十六・五％

・神戸市　二十二・二％

・徳島県県二十・〇％

・大阪府　八・〇％

・高知県　五・三％



大鳴門橋の諸数値（関門橋との比較）

	大鳴門橋	関門橋
橋長	1,630m	1,068m
中央径間長	870m	712m
側径間長	330m	178m
桁下高	41m	61m
車線数	道路6車線 新幹線複線	6車線
塔の海面上の高さ	142.69m	140.8m
補剛トラス高さ	12.5m	9m
ケーブルの直径	1,070mm	664mm
ワイヤーの本数	36,112本	14,014本
ワイヤーの総延長	120,000km（地球の約3周）	32,500km（〃 3/4周）
ハンガーロープの径	90mm	53mm
総鋼重	108,500t	30,000t
総コンクリート量	334,900m³	151,000m³
路面幅	30m	26m
工期	5年	5年

強い架橋への願い

譲歩のみられる漁業組合

漁業組合で、まず驚いたことには、徳島県の組合としては反対していないことであった。つまり、大きな反対運動は、起っていなかったのである。（しかし、漁業者の一部では、反対をしている人もあるそうだ）。

そこで、なぜ反対しないのかと聞いてみると、架橋がかけられることは県民全体の願いであるから、とのことだった（漁業組合としては、辛抱しているのである）。

次に、被害の面を聞いてみた。まず、工事中の被害では、「騒音や海水汚染（海が濁る・油の流出）」があげられる。

また、完成後の被害は「騒音（列車・車の通過）」や「光線の変化」――常時光線（漁業をする際に、この光で魚を寄せ付ける）が放たれているのならよいが一時的な光線（列車や車が橋の上を通っている間に放たれる光線）は、魚が逃げるためよくない。

あるいは、「自然破壊による影響」――海岸には、魚付保安林という雨天の際土砂が海へ流れ込まないようにするためのものが、植えられているが、それが工事によって破壊されると、泥水が流れ込み海が濁り、魚が寄り付かなくなる。しかしこの被害は、一時的なものであろうとのことだった。

また、橋げた付近では自然に潮の流れが速くなったり、橋げたを通過した海水は、渦を生じさせたりしその付近では漁業をするのは危険である（漁場の縮少）。

このような被害があるにもかかわらず、組合側が譲歩したことから、県民の願いの強さがよくわかる。

無論、県民の願いだけではなく、少々漁場が縮少されても、苦しいけれどまだ生活はできる、とか譲歩に対して国からある程度補償されているということもあった。

その補償についてだがされているのは、鳴門市内の八漁業組合（里浦・鳴門・鳴門町・室撫佐（むろむさ）・堂浦（どうのうら）・小鳴門・北泊（きたどまり）・北灘漁業組合）だけで、工事中の補償はされていても、工事後に関してはまだされていなかった。なぜなら、まだ、どの程度の被害があるか、わからないからだそうである。

――参考――

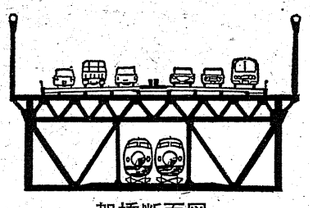
鳴門市内の補償隻数は約五千六百隻分の千二百六十八隻・漁民数は、一万一千名分の千五百五十八名。

これらの補償は、組合としては満足していないということであった。その理由は、実際に橋ができあがってみないと、どういう被害があるのかわからないのに、事前の話し合いで、予想被害に対して補償しているのだから決して充分ではない、とのことだった。また、支払側（公団）の経済力にも限度がある。

ここでもまた、譲歩していることがわかる。これはあゆみよりがなければ、解決しないし、やはり県民の願いだったので組合側はこうせざるを得ないということからである。

次に、橋の価値については、本州と陸続きになることは、便利である。なぜなら新鮮な魚が、トラック輸送できるということだった――このことは、品物をいためず、手間（時間・金銭面）が省けることにつながる。

漁業組合は、旅客船協会に次いで反対が強く、運動もさかんだと思っていたがこのように、譲歩していたというのには、本当に驚いた。



架橋断面図

解決されぬ補償問題

―旅客船協会―

本四架橋は『夢の架け橋』といわれ、人々は皆うかれているが、その中でいまだ何の補償の約束もなく、不安な日々を過ごしているのがフェリー・旅客船会社であり、その従業員である。

このように無補償の状態がふえたことなどが原因である。前者の場合、二十七年前に本州と四国を結ぶ架橋ができるとは誰しも思わなかったので、しかたがないが、後者の場合、国側として、規定を設ければ船舶数は制限でき、今問題になっている補償もそれほど多額にならず、全部の船に補償ができるようになるのではなかっただろうか。

ところで、瀬戸内海でフェリー及び旅客船の仕事に携わっている従業員は陸上サービス（乗船券などの販売など）も合わせて約九千三百人、従業員各々に家族が、三人として考えてみると三万人近い人達がフェリーや旅客船による利益によって生計をたてている。

先頃、現状打開のため、瀬戸内海の旅客船の従業員は補償要求をしてストしたが、結果は利用客に窓ガラスを割られただけで、あまり問題の進展はなかった。利用客は瀬戸内海の船舶がどういう状態にあるのか知って行動しているのだろうか。きっと何も知らず、一時の憤りのために窓ガラスを破ったのだろう。我々一般の人にすれば、旅客船の不安を他人ごとのように思えるかもしれないが、同じ国の問題にもっと感心をもつべきではないだろうか。この内情を知ったならば決してこういう無謀な行為は出来ないはずである。

また、船は四国と本州を結ぶ重要な輸送機関であり公共のものであるゆえに、ルート開通の前日まで運航しなければならない。補償がないから当然行きづまるだろう。現在、児島―坂出ルートではフェリー・旅客船の使用数が国側の推定で二〇～五〇％に減ってしまっている補償もそれほど多額になるであろう。これでは、フェリー・旅客船会社は解散するか、規模を小さくするしか採算のとれる方法はない。どのルートについてもそうであろうか。

そこでどうしても従業員の解雇が生じ、また退職金の問題になって転職のことが問題になってくる。この場合、退職金は従業員にとって無理に退職させられるので、規定以上に上積みしなければならない。転職も二日働いて一日休みという二労一休制で高賃金の船乗りにとって、なかなか良い仕事は見つからない。そうなれば、週休一日あるいは二日の一般会社の勤務体制になれることや就職のための再教育も必要になる。フェリー・旅客船会社側のこれらの内容を含んだ補償要求書を取上ると

(1)資産の整理の円滑化

不用となる船舶・施設などを公団が、適正な価格で買い上げる。

(2)従業員の退職金の公団負担

営業権、株主への資本金の還元、役員の退職金等を内容とする。

(3)漁業補償のような事前補償でなく、完成時点における補償とする。

(4)事業を廃止しても会社を解散しない場合、会社が事業規模を縮少する等の場合も右記に準ずるものとする。

と明記されている。

今までにフェリー・旅客船の会社では、旅客船協会を通じてまず補償に関する法律を作るように国に要求を二〇余回繰り返しているが、いまだに、立法に関して、運輸省・建設省・労働省・大蔵省・環境庁による閣僚会議は開かれていない。五十三年には完成する予定の橋がある現在、一刻も早く解決されなければならない問題ではないだろうか。

市民の認識を

―鳴門市―

鳴門市の人々や、その家族もとうでは、市てい見捨てることはできないを挙げて（勿論、そこで、市としてはこう一部の船という人々の問題（補償等）船関係従をいかにして解決していく事者を除つもりなのかと尋ねたところて、「今のところ、橋を建の大鳴門設するにあたってどんな問橋をかけ題がおこるものか推察できる運動を ないので、おこった時は、進めていおこった時で善処する。」という答えが返ってきた。

少々無責任な返答ともとれるが、これは、それほどにも市当局の、というより四国の人々の架橋にかけるとによって願望などが大きいので、デ損害を メリットになる問題に対し被る船舶 てはあまり重要視できない会社など 状態にあることを、示している ものと思われる。

また、橋の価値に関しても「値千金である。とにかくかかってくれれば有難い。」というふうな答えが返ってきた。

八十万徳島県民、いや全四国の人々の六十余年にわたる悲願であった、本州と四国を結ぶ『夢のかけ橋』が、鳴門にかかるということは、果たして鳴門市市民にとってそれほどにも喜ばしいことなのか。あまりにも大きい願望の陰にかくれている問題を忘れているのではないだろうか。我々は

着工までの経過報告

―地元への影響―

＝架橋促進経過＝

この架橋によって四国地域の総合的な開発を行う計画は、約六十年も前から提案されてきた。

大正三年。徳島県選出の中川虎之助代議士が国会で「鳴門架橋及び潮流利用発電調査に関する決議案」を提出して以来のものであるしかしその当時は他の議員の賛同を得られず否決された。

昭和三十一年には原口神戸市長から「明石海峡架橋長大橋」の構想が出された。昭和三十五年には、香川県を除く四国三県と大阪府・大阪市・神戸市の七府県市議会で「本土・淡路・四国連絡橋架設促進協議会」を結成し、本州四国架橋問題はクローズアップされた。

そこで建設省と国鉄は、技術的検討を土木学会に委託した。土木学会は、三十七年に本州四国連絡橋技術調査委員会を設置し、同委員会は昭和四十二年五月に「三ルートとも建設可能」の報告書を提出した。

日本道路公団及び日本鉄道建設公団は、昭和四十三年・四十四年の両年度に基礎的調査を実施し、三ルートの基礎的構想をかためた。

そして四十四年五月。三ルートとも昭和六十年までに建設を図るという「新全国総合開発計画」が閣議決定された。

昭和四十五年七月、本州四国連絡橋の調査、建設を担当する機関として〝本州四国連絡橋公団〟が設立された。

昭和四十八年九月、建設・運輸大臣は、三ルートについて基本計画を策定し、工事実施計画を許可した。

また、同日、運輸大臣は鉄道建設審議会に四国新幹線を含む十二新幹線の基本計画について意見を求めた。

そして十一月二日、原案どおりに答申を得て、同月十五日に運輸省はこの工事基本計画を決定し、同月二十五日に三ルート同時着工が決った。

しかし、中東戦争を機会に我が国は深刻な石油危機に直面し、これに伴い総需要抑制策として着工寸前の本四架橋工事は、昭和四十八年十一月二十日に工事を延期することになった。

以来、昭和五十年七月二九日、建設・運輸両大臣、国土庁長官らを含めた本四架橋関係七閣僚による会談において、低成長経済情勢に対応して本四架橋は当面

盛り上げよう住民意識

我々新聞部が今回の研修旅行において、徳島、淡路の人々があまりにも、この大鳴門橋についてのデメリットに目を向けていないことを強く知らされた。

なぜ、このような片手落なことが起こるのだろうか我々新聞部は話し合ってみた。

徳島の場合、この橋の着工は何十年来の県民の願いであった。それだから、県民は表面の複雑な問題（費用、デメリット）まで目を向けないのはやむを得ないことであろう。

淡路島の場合、メリットよりデメリットの方がだんぜん多いはずだ。しかし、旅客船協会などの一部の人たちの、積極的なデメリットに対する運動だけで、住民は橋について関心がなさそうであった。これは住民が着工現在及び完成後の被害を過小評価しているからであろう。

つまり、住民運動を押さえる最大の原因は、「完成してみなければわからない」という問題点が、あまりに多いので、現状では、訴える糸口がつかめないことであろう。

しかし、積極的な住民運動を行なえる人々は、このままの状態で泣き寝入りしてしまうのではなく、自分たちがわからないのなら、それなりに納得のいくように徳島県庁、市役所などの地方自治体と話し合いすればどうだろうか。そして、一般の人としても現在自分に直接影響がなくても、これらの問題を知り犠牲になっている人々を応援してあげるのが義務ではないだろうか。

全般に、上層機関が着工ばかりあせって冷静な目でデメリット的な問題を見ていないように思われる。そのために、こういうあやふやな結果がでてくるのではないだろうか。

実際には、漁業組合は見込み補償で譲歩し、旅客船協会などは一番被害を被るのに、無補償の現状なのだ。

前者は、五十三年度完成予定の大三島大橋の補償問題もからんでくる。そのため早期に解決しなければ、問題は大きくなるばかりである。従って、徳島・淡路の地方自治体としては、住民にメリットばかりに目を向けさせるのではなくて、もっと公平な立場からこの架橋問題を公表していくべきである。旅客船協会の補償にしても、国会は現在、政治上の大きな問題があり今回の問題に目を向ける余地がない。

だから、地方自治の本来の意味通り、被害を受けている人々の生活を安定させるためにも、国会へ早く補償を法律に定めさせるように、働きかけてもいいのではないだろうか。

◇　◇

新聞では、ほとんど現在の状況・あるいは、着工までの過程などを取り上げるだけに終り、すべての資料を載せることができなかった。そこで、載せきれなかった点を展示の部でカバーすることにした。

展示の部では、詳しい補償の規定や、被害状況を表や図をも利用して示している。

ぜひ展示の部もご覧下さい。

TAKO訪問

校内に漂う清潔感

―府立白菊高校―

国鉄阪の養成学校である。そして、「男子も入学できるか」と聞いたところ、「できない。でも、天王寺駅から歩いて約十五の方に看護士の学校が最近できた」という返事が分。そこ近くに府立白に返ってきた。普通科とは菊高校がある。白菊高校は第一印象は、雨が降っていたせいもあって壁が黒ずんで見え、古い学校のように感じた。しかし、校門をくぐりスロープを登って校舎に入ると、第一印象とは全く違って校舎は真新しく、きれいであった。

白菊高校は十年前に現在の通信制の桃谷高校のある場所に創立した。白菊高校の創立以前に勝山高校があったそうだ。現在の校舎は五年前に建てられたそうである。昔は寮があったらしいが今はないということだ。現在の校舎には暖房設備が完備されており、阿倍高生としてはうらやましい限りである。また、阿倍高とは違って校舎内では土足厳禁になっている。

この学校は、准看護婦和線、三国ケ丘駅の養成学校で、「男子も入学できるか」と聞いたところ、「できない。でも、天王寺駅から歩いて約十五の方に看護士の学校が最近できた」という返事が分。そこ近くに府立白に返ってきた。普通科とは菊高校がある。白菊高校は第一印象は、雨が降っていたせいもあって壁が黒ずんで見え、古い学校のように感じた。しかし、校門をくぐりスロープを登って校舎に入ると、第一印象とは全く違って校舎は真新しく、きれいであった。

白菊高校は十年前に現在の通信制の桃谷高校のある場所に創立した。白菊高校の創立以前に勝山高校があったそうだ。現在の校舎は五年前に建てられたそうである。昔は寮があったらしいが今はないということだ。現在の校舎には暖房設備が完備されており、阿倍高生としてはうらやましい限りである。また、阿倍高とは違って校舎内では土足厳禁になっている。

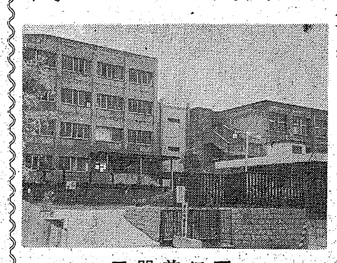
この学校は、准看護婦中には実物の人骨があって、ちょっとした病院という感じがした。医療設備の実習だけでなく、一年生は生徒が患者になって看護の練習をし、二年生は二週間、三年生は六週間、病院へ行って二年生は患者の身の廻りの世話を、三年生は手術の見学等をするとのことだった。看護の実習をしに行くというのは看護学校ならではのことだ。

この学校は普通科と同じ三年で卒業をし、卒業すると准看護婦の受験資格が与えられる。この試験に合格すれば病院へ勤めるか、看護専門の大学へ行ったり、白菊高校の専攻科へ入ったりする。専攻科の定員は八十人で六十人は白菊高校から、残りの二十人は病院等からくる。専攻科や大学を卒業すると看護婦の受験資格が与えられる。

この学校には、貸帽式という変わった行事があって、一年生から二年生に進級する時にナースキャップ（看護婦が頭にかぶっているもの）を先生方から一人ずつ頭にかぶせてもらう儀式や、専攻科の人々が主に行う文化祭と同じような専攻祭等がある。

自治会は議会等の組織はなく、執行部が会議を開いて物事を決め、決まったことを全員に報告する仕組みになっている。だが、執行委員には立候補する人が少ないらしいまた、信任投票はないとのことだった。

校舎内は白で塗られており、ゴミ一つ落ちていずに清潔であって、「白菊」の名にふさわしかった。



正門前にて

＝大学入試制度改革＝
五十四年度実施 新たな入試制度

学生生活で一番大きな不安といえば、やはり受験であろう、そこで、新聞部はひそかに、築かれつつある大学入試制度改革についておもなことを調査してみた。

このことによって、少しでも諸君が、今後の進学に対する姿勢の助けになれば新聞部として幸いである。

現在、高校生たちの間でしばしば耳にする話があるそれは『大学入試制度改革』についてだ。

この『入試改革』で注目を浴びているのは、国立大学の共通学力テストであろう。この共通学力テストとは、文部省が受験地獄の解消、高校教育の是正の目的に、四十五年七月に大学入試改善会議にその具体的検討を依頼した。そして同会議が翌年の暮れに、いくつかの提案を盛り込んだ報告書を提出した。その内容は

①全国共通学力検査
②調査書の活用
③学力試験だけでなく面接論文、健康診断も合わせた総合的な判定法式の採用

であり、同会議が力点を置いた①の全国共通学力検査のことである。

こうした入試改善は以前から叫ばれていたそうだ。それで、この報告書を機会に、文部省は四十八年度予算で初めて、国大協の共通一次試験の調査費に四千五百万円を組み込み、検討に踏み切った。

では、この共通学力テストとは、どのようなねらいを持っているのだろうか。

これを国大協が出したレポートで揚げてみると

①共通学力テストと二次試験の組み合わせによって適切な評価ができる。つまり、共通学力テストでは主として高校における学習の達成度を評価する各大学が個々に問題を作成して実施する二次試験では、主として総合力、思考力、さらに専門に対する適性を調べ、これらを評価する。

②共通学力テストの問題は衆知を集めて製作するので現行試験問題よりも、よい問題ができると考えられる。従って、平素の学習の実力が現れ、受験準備で左右されにくい試験となる。これに各大学の綿密な二次試験が加わることによって、現行の入試が一発勝負であり、その成績の相関が低いという欠陥は解消できる。

③きわめて多人数の受験生がある場合、限られた期間内で採点するためにはよい問題をだしたくてもだせないで、結局客観テスト（○×式）にならざるを得ないのが現状である。しかし、共通学力テストで足切りを行なうこともでき、従って綿密な二次試験を行うこともできる。

④二次試験日数、科目数を減らすことができ、入試の労力も減らすことができる。

以上のことは、結構づくめの気がする。そこで大学基準協会（国、公、私立大の関係者団体）に共通学力テストのデメリットについての検討をとりあげてみると

①受験勉強の行きすぎを完全に抑止するとは考えられず、逆に共通学力テストのための受験技術をあおることになり、二重の負担を与えかねない。

②共通学力テストは客観テストにならざるおえないので暗記主義、詰込み教育に拍車をかける危険性がある。

③テスト時期が繰り上がるため、それだけ受験準備も早くから始めなければならない。などであった。だから、ここで私たちが認識しなければならないことは、共通学力テストはあくまでも高校での学習到達を測るものである。それゆえに、

①各科の基礎知識は徹底的マスターしておくこと。
②問題形式は選択法だからある程度のスピードが必要である。

それに、各大学が行なう二次試験は記述式のものが多くなりそうなので、

①分析力
②要約力
③表現力
④応用力――――の他に「適性」もテストされるため、志望校と学部をじっくり見きわめて受験に望む態度が必要だそうだ。

・もう一つの改革・

ところで、入試改革でもう一点、着目しなければならない問題がある。それは国立大の一期校と二期校の一本化である。つまり、現在は一期と二期に分かれ、入試日も別々である。

ところで、この一期校と二期校の区別だが、一期には、東大、京大などの旧帝大が、そっくり入っていて二期には、専門、師範学校の持ち上がりが多い。そのためか、一般的に、私たちの目は、一期校に引きつけられ、その上テスト日が二期の方が遅いこともあって二期校はすべり止めという考えが定着してきた。それを今回の改革で、統一してしまおうというのである。

この提案の利点といえば一期校と二期校の格差をなくすことができる。それからテスト実施が一回限りになるので、コンピューター処理も合理化し、結果通知も二度に渡る必要はなくなるので、手間がかからず、共通学力テストの効果を高めることになる。

これらは、私たちにとって結構なことだが、それ以上につらい問題が起ってくる。実に、二回のチャンスが一回に減るのだから「一期がだめなら二期へ」という甘い考えは切り捨てられ実力相応の所しか狙えないということになるのである。

このことについて、自分の実力以上の大学を望む、背のびした受験生が減るという意見もあるが、逆に自分の狙う大学が激戦になることも十分考えられる。また、ますます私立大との併願率がふえるであろう。

ところで、この一本化はいつごろ実施されるのだろうか、全国高校長協会は「五十三年度以降実施を提案し、自民党文教部会では「五十一年度早期実施」を打ちだしていた。また学識経験者は「五十二年度実施」を主張していた。

しかしこの調整役の文部省は、共通学力テストの動きも考慮に入れて、五十四年度実施を決定した。

これは現在の高一の生徒たちが受験する年だ。

けれど、制度が変わっても、動じることはない。

要は、現在の授業を大切にして行くことである。

自治会に思う
まず議会の活発化を

諸君も知っているように今の我校の自治会は静まりかえっている。それは我々生徒の自治会に対する関心が薄いからである。

それは一体何故か。少し考えてみることにしよう。まず一つの原因は、関心が薄いと言うより、自治会のことを、わかろうとしていない。執行部が、何か報告している時でも、少しも聞こうとしない。

もう一つは、大部分の人が執行部＝自治会として考えていて、学校の自治は執行部に任せていたら良いなどと、言っている。

しかし、その反面、自分たちは、このようにまるで無関係だと言うような態度をとっているのに、何かにつけて執行部を目のかたきにしている。嫌いだとか、先生の支配下にあり力がないなど、ひどい生徒になると、何をしているのかわからないなど、勝手なことを平気で言っている。これはまちがっている。なぜなら執行部は、毎日努力に努力を重ねている。また、制服問題に関しても、積極的にもかかわらず、我々がのんきな顔をして、ただボサッとしているだけなので、歯車はうまくかみあわず、から回りしているのだ。

我々は、執行部のことを悪く言う前に、自分たちの自主性のなさ、頼りなさを反省しなければならない。こんなことだから、全生徒が中心になって、活動しなければならないはずの修学旅行・文化祭・体育大会などの行事を、一部の役員が先生の援助を受けざるを得なくなっている。

ある高校では、学校行事をすべてと言ってよいほど生徒たちで決定し、行なっている。執行部は生徒に積極的に接し、生徒もそれに応えている。また、生徒の同意を求める時など、ビラなども配っている。そのため生徒は執行部の行動が、手に取るようにわかるらしい。それだけ生徒は、自治会に関心を持っている。

このように他校のことを取り上げることについて、「阿倍高は阿倍高で、他校とは違う。」と言う人もいるだろう。しかし、あえて書いたのは、他校の『積極的な自治会』をみんなに知ってもらいたかったからだ。

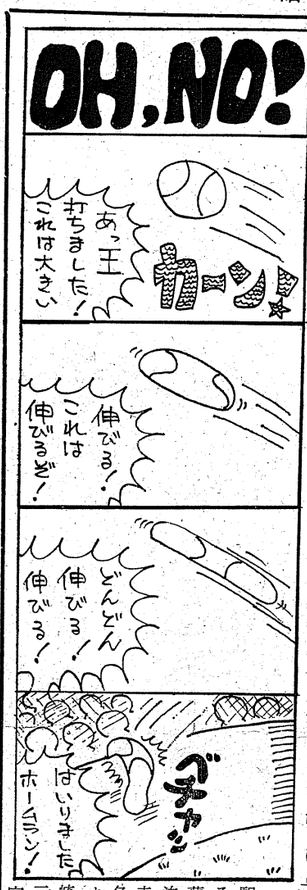
我々は、長い義務教育を終え、就職もできるし、三年生の男子と、全学年の女子の場合は、親の承諾さえあれば結婚もできる年齢になっているのだから、自分の言動には、責任を持たねばならない。同様に自分の学校の自治にも責任を持つべきであろう。誰かがしてくれる、先生がしてくれるだろうと、他人任せの考えを、持ってはいけない。

ここで、みんなが自治会員という認識を持たねばいけないのだ。それにはまず議員にやる気のある人を選ぶことだ。前期役員選挙のときはクラスの様子がわからず、議員は選びにくいと思うが、後期には、もうクラスのだれを選べば頑張ってくれるかわかるはずだ。

また、選ぶだけでなく、自主的にやる気のある人が進んで議員になり、やる気があっても消極的だから立候補できないとか、自分の中にやる気というものが潜んでいるのをまだ知らない生徒などを見つけ、協力してくれるように、引っぱっていってほしい。

また議会は、H・Rと執行部とを、直接つないでいるので、やる気のある人が議員になると、執行部の意見なども積極的に、生徒に伝えてくれるだろうから、学校の自治を進めていくのもたやすくなる。そしてまた現在沈滞しているH・Rを打開するために、できるだけの方法を考えるべきだと思う。たとえば、クラスを四つぐらいに分け、小人数で意見を出し合い、そして四つの意見を今度は全員で話し合うと言うのはどうであろうか。なぜなら、消極的な人であれば、四十五人の前で意見を述べるのは困難なことであろう。だから、前述したようなことをすれば、少しは意見を出すのではなかろうか。

本来議会には、一つの部を廃部することも出きるぐらいの力を出すことができるのだから、やる気のある人を選べば、議会の力を最大限生かすことができるであろう。このように、自治会の活発化は、まず議会の活発化から始まるのだ。



お知らせ

十月十三日から十月十七日まで四泊五日で、二年生が九州へ修学旅行に行く。

そこで、その五日間の主な日程（晴天の場合）を紹介しょう。

まず第一日目は、新大阪駅から新幹線で博多駅へ。そこから太宰府を経て、阿蘇山に登り、赤水温泉で宿泊する。翌日の二日目は、赤水温泉を発ち、神話で有名な高千穂峡（たかちほきょう）へ行き延岡市から宮崎市を通り、青島に宿泊。三日目は、青島を後にして宮崎の日南海岸の風光を賞美して鵜戸（うと）神宮まで行き、霧島山の北方にあるえびの高原へと向かう。そのえびの高原から霧島神宮を経て、鹿児島市内の城山公園へ行き、市内で宿泊する。四日目は、鹿児島港から船に乗り、桜島の袴腰（はかまごし）へ行き、桜島を見物した後、再び鹿児島市へ戻る。昼食を取った後、薩摩半島の北にある池田湖へ行き、薩摩半島の最北端の長崎鼻を経て、帰途につく。そして最終日の五日目には、大阪に到着する予定である。

かなりのハードスケジュールだが、高校生活において、最大の思い出となる旅行を楽しんで来て欲しいものだ。

家庭クラブ
活発な広報活動を

家庭クラブは今、以前にくらべて活動が低下してきているといわれている。

現在は自治会クラブとなっている琴部や、今はない英文タイプ部などが以前は家庭クラブの活動の一環として行なわれていた。またフォークダンスや家庭クラブの研修旅行などのクラブ員相互の親睦を深める行事も多くあった。

しかし、現在においてその活動分野は減少してきている。

例えば、毎年行なわれていた文化祭でのバザーも今年は、経済面での関係からとりやめになり、フォークダンス等も自治会の手に移っていった。

また、以前は数多く行なわれていた各種セミナーも今はあまり行なわれず、集りも、もう一つよくない。

その他「保育」をテーマとした研究発表を他校と協力してすることや、卒業した家庭クラブ員との交流など幅広い活動も現在は行なわれていない。

それに、一番授業と関係の深いホームプロジェクト（家庭において学校で習ったことを生かすべく、どんなささいなことでもよいから計画を立てて実践すること）作品の作成も家庭クラブの活動の一環として受けとめることがむずかしいようである。

では、このように活動が以前のように活発でない原因をいくつかあげてみると

会員のやる気のなさ、参加する場の少なさ、会員の意見を反映させる場がないこと、存在の不明確さ、女子だけで組織されていることなどがあるが、この中で最も大事なのは、会員にやる気が薄れてきたことである。

このことは、参加することが少ないことにはじまり関心のないこと、不活発な活動と、さまざまなことに関連していくのである。

では、このようなやる気のなさを解消するには、どうすればよいのか。

今までの対策は、家庭クラブ執行部に望んだことだが、次に一般会員に望みたいことを述べると、もう一度家庭クラブというものをみなおして、疑問があるのなら、その答えを知りたいとか、不満があるのなら、その不満を解消するにはどうすればよいのか考えるとか、とにかく意見があるのなら内にひめていないで外に出すことである。このことが現状打破への第一歩となるのだから。

まず、会員にもっと家庭クラブのことを知ってもらうようにすること。そのためには、家庭クラブ執行部の活発な広報活動を望む。

具体的にいえば、会員の意見を反映するためにも会報を発行してはどうだろうか。この会報を通じて家庭クラブの状況を正しく一般会員に知ってもらうこともできるし、首脳部と一般会員とを結ぶパイプにもなると思う。

他の方法として、家庭クラブを改善する会を組織して活発にするための話し合いをすることや、各クラスより選出されている家庭クラブ委員を通じて、家庭クラブとは何かということを知らせること、今の現状をアンケートなどに把握してその対策を考え実行することなどいろいろな案がうかぶだろう。

エンマ帳

国会議事堂のふたがあき煙突の大掃除が始まった

誰も知らなかった「すす」が、詰まっていたのだ自民党は、この大掃除を今日も、防ごうとしている。

なぜ、この煙突が詰まってしまったのだろうか？それは、一人一人の軽々しい紙がくすぶり続けていたからだ。

詰まってはいけない煙突詰まらせたのはだれだろうか？

そう、詰まらせたのは、軽々しく一枚の紙に、軽々しい自分の心で、軽々しく名前を書いた人間達だ。

考え抜いて、責任をもって書かった一枚、一枚が今より、もっと多くあったなら……

この煙突は、詰まらなかっただろう。

今、この煙突の下で何が起こっているのか、知っている人達がどれだけいるだろうか。

今、自分の書いた人が、何をやっているか、知っている人達がどれだけいるだろうか。

多くの人達は、「どうでもええわ」「国会なんかいらんわ！」「誰がなっても一緒や」と思っているだろう。

しかし、果たしてそうだろうか？

煙突の穴が詰まることは我々の恥だ

それに、今度の煙突の詰まり具合いは戦後最大だ煙突の下で紙を燃やしている以上、すすがたまるのは仕方がない。

しかし、紙をもらう一人一人が、自分の書いた紙がくすぶっているかどうかぐらいは、知らなくてはいけない。

そう、自分の書いた紙は決してくすぶってはいけない。くすぶりかけたら早くその紙を、煙突の下から取り出さねばならない。

これからは我等の世代もうすぐ、投票権をもてるようになる。

その時、思いだしてほしい。

軽々しく、責任のない紙が煙突を詰まらせたことを。

そして自分は、社会の一員だということを。

それから、書いてほしいもうすぐ、会う投票用紙に……

（日本の音楽界）

日本の音楽界を語る上で最も大切なのは、常に日本の音楽界には世界中の音楽が犯濫していて、それが常に日本の音楽界に影響を与えていることだ。

さて、影響を受けているジャンルで第一に挙げられるのがフォークである。そこで、日本のフォークに大打撃を与えた男、ボブ・ディランの登場となるのである。この偉人の影響は非常に広く伝わり、日本のフォーク界にも深く浸透していることである。また、こ

ことも十分考えられる。また、ますます私立大との併願率がふえるであろう。

ところで、この一本化はいつごろ実施されるのだろうか、全国高校長協会は「五十三年度以降実施を提案し、自民党文教部会では「五十一年度早期実施」を打ちだしていた。また学識経験者は「五十二年度実施」を主張していた。

しかしこの調整役の文部省は、共通学力テストの動きも考慮に入れて、五十四年度実施を決定した。

これは現在の高一の生徒たちが受験する年だ。

けれど、制度が変わっても、動じることはない。

要は、現在の授業を大切にして行くことである。

第29回体育大会
白虎総合優勝
玄武応援合戦優勝
まずかった進行状態

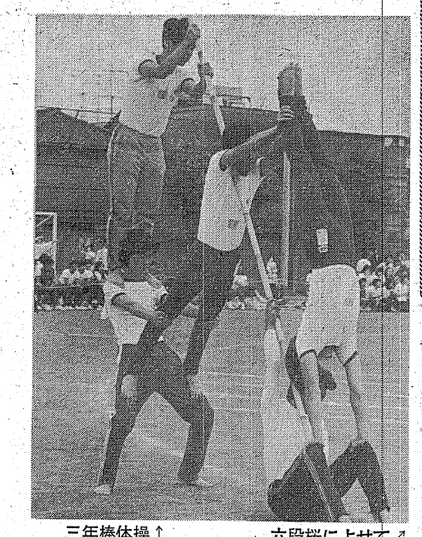
今年は去年どおり、白虎・青龍・朱雀・玄武の四グループに分けられ、グループ対抗の競技や学年別の団体競技が行なわれた。今回の総合優勝は、白虎で、四グループのうちで、このグループだけが六百点を上回った。

今回の体育大会は、あいにくの曇空で、天候が危ぶまれたが、競技は雨が降ることもなく終了した。だがコーラスファイアーは、途中から雨が降り、中止となった。

今回行われた種目のうち一番人気の高かったものは先生方の着付け競争であった。囲いのロープの所にはカメラや八ミリを構えた人々が集まり、中には、ロープをくぐって中に入って来る大人までいた。五つ子や子連れの新郎新婦が人々の笑いを誘っていた。

また、三年勇志による仮装行列も着付け競争と同じくらい人気があった。今年の各クラスのテーマは、一組「西部劇」二組・七組合同の「今年話題になった人物」三組「これが現代の吸血鬼だ」四組「おとぎの国プラス河内のおっさん」五組「農協団体」六組「日本の昔話」八組「一〇一四ワンチャン大行進」であった中でも五組の仮装行列に笑いが多かった。行列の途中板張りのバス？の板がおれるというハプニングもあったが、これが行列をもっと盛り上がらせ、良かったと思う。

応援合戦では優勝が玄武準優勝が白虎であった。玄武では、団長を中心として団員全員のいきがそろっており、動きの多かった割には列が乱れたりすることもなく、動作も機敏で、すば


三年棒体操↑　六段桜によせて↗

着付け競争

玄武応援団

らしかった。白虎は、初めのうちは、声が聞き取りにくく、応援をしているような感じは与えられなかったが、まとまりがあったので会長挨拶の時でも整列が遅れる。残りの青龍・朱雀グループは、団長とその回りの数名の者が声をからしてがんばっていたが、その他の者はほとんどばらばらで場所の移動の際も時間が少しかかりすぎた。他に、動作の乱れや声の出しまちがい等も得点のマイナスになったのだろう。

次に、進行状態をみてみると、前半、「おまちどうさん」で、整列が遅れたり説明不十分の為、ルールがはっきりわからなかったりして、五分余り遅れた。他に前半・後半共に言えることだが、入場門に集合するのに時間がかかり過ぎた。入場の音楽がかかっているのに、まだきちんと整列ができていないというような事がしばしば見られた。体育大会は、我々が高校で学んだ運動の技を発表する機会なのだから、もっと真剣になってやってもらいたいまた、前半終了後のPTA会長挨拶の時でも整列が遅れ、話をされている時も、隣の者と喋ったり、よそ見をしている者が多く、殆どの生徒がだらけ気味であった。このような態度をとると、話をしている人もいやいなっていってほしい。

仮装行列
もう一工夫を望む

一組　西部劇
女子がガンマンに扮していたためか、ガンマンとしての迫力が少なかった。しかし、乱闘シーンなどがあり、西部の雰囲気がよく出ていた。

二組　今年話題になった人物
二クラス合同でやっただけに内容が豊富で、男装の女子は、「かわいい男の子」という感じがした。

三組　これが現代の吸血鬼だ
現代の吸血鬼としては不気味さが足りないように思われたが棺桶の発想や衣飾がおもしろかった。

四組　おとぎの国プラス河内のおっさん
題に「河内のおっさん」とあったが、そのような人物は見られなかった。このクラスも、まじめな行列の一つで、小人が可愛らしかった。

五組　農協団体
何と言っても、こえたどをかついでいたおっさんが愉快であった。たどの中にはこえをまねたカレーライスが入っており観客席に放り投げていた。

このクラスは、生徒がたくさん参加していたので、行列が盛り上がっていた。

六組　日本の昔話
三年の中で一番まともだったのではなかろうか。「さるかに合戦」に登場していた人達はなかなか可愛らしかった。浦島太郎の後ろにいたカメは、愛嬌があって良かったと思う桃太郎が鬼に殴られていたところなどは大変滑けいであった。

七組

八組　一〇一四ワンちゃん大行進
誰もテーマを記したプラカードを持っていなかったので、いったい何の行列をしているのか説明があるまでわからなかった。行列だけでなくもう少し芸を入れれば、おもしろいものになったと思う。

仮装行列

コーラスファイアー
不参加者多し

開始予定時間よりも二十分余り遅れて、小雨のぱらつく中コーラスファイアーが行なわれた。今年は、参加者が百～百五十名位と大変少なく、参加者の半数以上が女子であった。先生方は、「去年はもっと多くの生徒が積極的に参加してくれたのに…」と話しておられた。なぜ参加しないのか承諾書を提出していない者数名に尋ねたところ、「暗くなると不良グループが通りをよくうろついているから襲われると困るから」「大相撲の千秋楽を見るから」などが理由となっていた。他に、悪質な者として、参加承諾書を提出して、コーラスファイアーには参加せず、体育大会の二次会の為に、喫茶店や繁華街に行ったりする者もいた。コーラスファイアー参加を理由にして、そんな所へ行くのはやめるべきである。我々はもう高校生なのだから、自分の行動にもっと責任をもってほしい。

またコーラスファイアーの際中に、雨がしだいに激しくなり、フォークダンスも行なわれないまま残念にも打ち切られた。先生方は雨に濡れてかぜをひくといけないからと中止の決定をしたのだが、不満を言っていた生徒が多かった。みんな中止になるまで火を囲んで歌い続けており、最後に歌われた「今日の日はさようならが、一段と盛り上がっていた。

コーラス　ファイヤー

音楽
活発な広報活動を

そして、今日、日本のフォークに影響を与えた人物は数えきれぬほどいる。ざっと挙げてみると、ピート・シガー、ジェーン・バエズ、サイモン&ガーファンクル、ジョン・デンバーなどである。

そして、それぞれのミュージシャンに影響されたフォークは実に多様になってきている。フィドル（バイオリン）やバンジョーを使用した、ウエスタン調のものや、エレキやシンセサイザーなどを使用した、ロック調のものなど実にさまざまである。そして一般的に言えることはフォークグループの人数が多くなり、設備も大がかりになってきていることである。また、こかはほとんど使用しないフォークが出て来た。このジャンルに属するのは泉谷しげる、加川良などである。彼らはギターと自分の声だけで強力な迫力を出している。このシンプルな迫力はフォークの源流とも言えよう。また、今後のフォークの一つの道を示唆している。

さて、フォークの中でロックに影響を受けたものは独自の発展を遂げ、ニューミュージックと呼ばれている。ニューミュージックは常にあらゆる音楽から影響を受けていて現代を最も反映している音楽だろう。

今や、日本の音楽界は戦国時代を迎えている。その中で最後まで生き残るジャンルはミュージシャンは。

それは君が決めることだ

=スポット=

開襟シャツに不満

検討委員会の設立を望む！

◇　日頃から、不満がつのっていた現行の開襟シャツ。この開襟シャツの異装を希望した一部の女子生徒が、〝異装届け〟と称して署名運動を起した。しかし、運動方法のまずさから、この運動は断念されてしまった。制服に抱いている不満をくすぶらせてしまわないためにも、もっと妥当な方法で現状の制服の不備さを改善していこう。　◇

一学期後半、女子生徒の間では、規定の制服を着用せずに、ボタンダウン等を着て来る生徒が増えつつあった。そこで学校側は、「このまま放っておけば、この制服着用の乱れがますますエスカレートする」と考え、服装検査が頻繁に行われることになった。その結果、ボタンダウンを着用する生徒はずいぶん減少したようだ。

しかし、しぶしぶ開襟シャツを着ているものの、急に実施されたこの検査に生徒側は、不満を持った。女子生徒が言うには、「入学時に女子の夏ブラウスは異装届けを出した者以外は、規定のものと約束したにせよ、今までは何も言わなかったのに、今になって急に制服以外のシャツを取り締まるのは、おかしい。どうして急に検査を始めたのか。学校側は、なぜ私達がボタンダウン等を着ているのかわかっていない」「女子の場合は、夏ブラウスに規定があり、ボタンダウンの着用を禁止されるのに、なぜ男子のシャツは規定されていないのか。男子も女子と同様に扱われるべきである」等である。

そこで起ったのがこの不満の表面化である。それは某先生が「現在の制服に不満を抱いている者は、異装届けを出せばよい」と生徒に言ったことに始まる。これに答えて、三年生の女子の一部が運動を起こした。女子全員に〝異装届け〟を提出するよう呼びかけたのである。その呼びかけ方法は、用紙に現行の開襟シャツの不満を述べ、異装届けを提出するという者に、署名を募ったのである。

結局、この用紙に署名さえすれば、〝異装届け〟を出すことと同じ意味を持つとされていた。

結局、これは、ほぼ女子全員によって署名され、校長に手渡された。ところが〝異装届け〟は、校長が受け取るべきものではなく、学級担任に提出するべきであるという理由で、校長には、受理されなかった。そして、この運動は断念されたのである。

さて、諸君は、この運動に対してどのように感じたのであろうか。この運動に対する女子生徒の態度は、反省するべきではなかっただろうか。確かに、この運動を起こした人達や、一部の人達は、真剣な心構えでこの問題を取り扱っていたのである。

しかし各クラスに署名用紙が回ってきた時、「ついでに私の名前も書いといて」といったような、簡単な気持でこの運動に参加した人なことだ。現行の制服制度が、生徒同志、また、先生と生徒間での十分は話し合いを持たれずに、改正されるはずがない。まして学校側に一種の流行と考えられている。ボタンダウンの着用については、当然許されないだろう。

女子生徒達が、本当に現行の制服に不満を感じているのなら、この運動を、このまま終らしてしまってはいけない。女子生徒は、「袖が短く手の上げ下げが気になる」「丈が短いため着くずれし、気になってしかたがない」「前ボタンの数が少ない」等の不満を、皆なにもっと知らせていくべきなのだ。学校側は、女子生徒が、現行の制服をどのように不満に思っているかを知らないし、また、男子生徒も女子の不満を明確には解らないだろう。

この不満をみんなに知らせていく手段として、制服検討委員会を設けていこうではないか。

私達は検討委員会を設けるために、H・Rの時間を有効に使って、現行の制服にどのような不都合があるか。どのように改善すればよいかを考えていかなければならない。

私達の制服は私達自身で改善されなくてはならないと思う。

—クラブ報告—

陸上部　メダル総数十一
卓球部　初の四回戦進出

—陸上部—

毎回活躍の陸上部は今回も大勝を収めた。

八月五日の八校戦に出場団体戦で男子総合優勝、女子総合四位となかなかの好成績、続いて、個人戦では大会記録を六レコード出し参加者全員が上位三位に入賞し、十二個のメダルと賞状を受け、表彰された。

また、八月二十四、二十五、二十六日の三日間にわたり行なわれた大阪総合体育大会陸上の部に出場森田君（一年）千五百メートル決勝太井君（一年）百メートル準決勝小林さん（二年）四百メートル準決勝津川さん（二年）まで進み、また円盤投げ六位砲丸投げ四位に入賞した。この大会にもなかなかの奮闘ぶりである。十一月以降、記録会、駅伝、クロスカントリーをひかえ、只今練習中の意気ようようたる陸上部である。

—美術部—

去る九月三日から九日まで天王寺美術館で開催されていた全大阪高校美術工芸展に全員が出品、内容は「油彩」であった。

また、本日の文化祭には木材工芸・油絵・版画・立体住品などを展示している先はレイ展を目指し活動中

—演劇部—

今年の六校合同発表会に先頃催された「くもの糸が虹色に光る時」を発表。他校との交流を深めてきたとのこと。

また、本日の文化祭には「おこりんぼう」を発表する。くそまじめで潔癖な主人公と彼女を取りまく友人たちとのアンバランスな存在のおもしろさを劇中、劇に取りまぜて皆に楽しく笑ってもらおうという趣向。

—女子バスケット—

東地区大会に出場し

一回戦　不戦勝

二回戦　対東大阪高校　一〇七対七

三回戦　対天王寺商業高校　六〇対四九

と勝利を収めたが、四回戦の対天王寺高校戦に敗れ、シード校の座を惜しくもがしたが、東地区大会のベスト8に入った。

大活躍の陸上部の面々

—ラクビー部—

リーグ戦をひかえ、練習に励み、練習試合を繰り返していたラグビー部は、練習試合では、天王寺、住吉に屈したものの、

対今宮戦　四十対十二

対今宮工業戦　六四対〇

と大勝し本来の力を発揮した。リーグ戦に入って

対夕陽ケ丘戦　四三対九

対大産大付高戦　二二対十四

で四連勝した。

しかし十一月には強豪浪商との試合が控えており、胸をかりるつもりで当るとのこと。それまでは、もっぱら基礎体力づくりに力をいれるそうだ。

—卓球部—

去る九月二十五日、二十六日の高師浜にある臨海スポーツセンターにおいて、大阪高校新人卓球ダブルス大会に出場。

女子の部では岩橋・馬場組、小谷・久保田組が出場した。岩橋・馬場組が一回戦であたった柴島チームは動きが悪く、最初から岩橋・馬場組のペースで、一・二セットと圧勝し、ストレートで柴島チームを下した続く二回戦の対泉陽チームでは一回戦とは逆に相手のペースに乗せられてあっけなく敗れた。また、小谷・久保田組のダブルス一回戦は市岡とあたり、一セット目勝利をおさめ、二セット目に臨んだが、ミスが連続し、不調のままこのセットを落とした。しかし、三セット目はもちまえの根性で接戦ののちものにした。二回戦では、強敵八尾を相手に全力でぶつかり、善戦むなしく惜敗した。

練習中の岩橋（右）、馬場（左）組

二度の採決理由を問う

放送部活動停止

去る七月二十日から現在に至るまで、放送部が活動停止になっている。これは放送部が五十年度第三期予算を不正使用したことに対して執行部が処分をとったものである。

この処分は、九月十六日の議会において、執行部から、放送部活動停止処分と提案された。

〈執行部提案理由〉

この事件が発覚したのは今年六月、五十一年度自治会予算のクラブ予算で、放送部が約十一万円の予算を要求したことから始まる。執行部は、予算折衝の際、部費の使い方を調べるため金銭出納帳を提出させた。しかし、その出納帳には破られたあとがあり、書き直したような箇所もあった。だが放送部はその出納帳に不正がないといいはり、一応その場はおさまった。

しかし、その後上野会長個人の調査から、その出納帳が実際の残高納一万六千円を約二千円に書きかえたものであることがわかった。

その後、出納帳の調査を進めていくうちに、一時期に一万円も部費として入金されていたことなどから、放送部が五十年度第三期予算を、不正領収証を提出することによって、ごまかしていることがわかった。不正金額は一万三千二百四十円である。この金は、クラブ予算にとれなかったクラブに必要な物を買うため、残しておかれていた。また五十年度の一期二期予算、文化祭クラブ補助費においても同様な方法でごまかしていた疑いがもたれているみんなの金であるはずの自治会費を一部の自治会員クラブであっても、不当な方法で使用することは絶対に許せないことである。二度とこのような不詳事がおこらないように各関係者を指導して行きたい。

このような提案理由で、放送部活動停止処分が可決された。

しかし、この議会での採決に際しておかしいところがあった。採決が二度も取られたのである。

一回目の採決で承認したのは、三十二名中六名であった。しかし、議長はその後一度手を下ろさせ、再度採決を取り直した。その時は、二十九名が挙手し、この提案が可決された。

この採決の取り直しに関して、議長は何の説明もしなかった。同じ提案理由で二度採決を取るということを行ったのである。このことに対して、議会終了後、ある議員が採決に問題があると執行部に訴えた。しかし、執行部、議会ともに、ただちに、何らかの処置をとろうとしなかった。

果して、このようなことが許されてよいものなのだろうか。同じ提案理由で何の説明もなく二度採決を取るということは、民主主義に反している。またそれに疑問を感じて、執行部に訴えた議員がいるのに、何らかの処置をとろうとしなかった執行部、議会の態度もおかしいのだ。

いかなる理由があろうとも、二度採決を取るということは許されず、一度目の採決が有効である。したがって、採決取り直しに関しての説明を、執行部に要求する。

=ざっくばらん欄=

読者へのメッセージ

自然に親しもう！

—オリエンテーリング—

筆者は和歌山のあるOLパーマネント・コース（公立オリエンテーリング指定地）を選んで、友達同士で行くことにした。

オリエンテーリング（OL）は、北欧の国々の軍隊において、将校訓練としての一教科として民間に広まり、北欧諸国はもちろんのこと、他のヨーロッパ諸国でも、学校の指導要領にも入るようになり、世界各国に広がろうとしているのが、現状である。

まず、ルールとしては、地図とOLコンパス（方向磁石）を使い、主催者（大会の場合）が示した方法で山野のなかに設けられた幾つかのポイントを発見し、通過する。そして、できるだけ短時間でゴールインする、というような、頭を使いながら、なおかつ自然に親しむスポーツであるという。

さて、話を戻すが、野上電鉄の紀伊阪井駅で下車し駅の近くのある店で、二万五千分の一の地図（OLマップ）を買った。それからテーリング指定地）を選んで、友達同士で行くことにした。

オリエンテーリング（OL）は、北欧の国々の軍隊において、将校訓練としての一教科として民間に広まり、北欧諸国はもちろんのこと、他のヨーロッパ諸国でも、学校の指導要領にも入るようになり、世界各国に広がろうとしているのが、現状である。

まず、ルールとしては、地図とOLコンパス（方向磁石）を使い、主催者（大会の場合）が示した方法で山野のなかに設けられた幾つかのポイントを発見し、通過する。そして、できるだけ短時間でゴールインする、というような、頭を使いながら、なおかつ自然に

駅前のマスターマップ掲示の持っている地図に十個程度のポイントとコースを写し取り、コンパスで位置を方向づけながら、出発したこれらが、OLに出発する前の準備である。

そして、第一ポイント・第二ポイントというふうに木蔭や川の土手の下、小径の行き止まりなどで、次々とポイントを見つけ出し、見つけた証拠として、ポイントに印されたアルファベットの記号を書き写す。

そうこうするうちに、やっとの思いで第六ポイントを見つけ出すことができたんで。澄んだ青空の下、小川のせせらぎを聞きながらみんなで食べる弁当の味はまたひとしおである。

食後、再び残りのポイントを探しながら進む。方向をまちがえたり、ポイントがなかなか見つからなかったのを友達と手分けして、やっとのことで見つけたりいろいろなハプニングが起こったりしたが、何とか最終ポイントまで、見つけ出す事ができた。

最終ポイントを見つけた時は、なんとも言えないすがすがしさと野外スポーツの独特の征服感でいっぱいであった。そして、今度は別のコースに挑戦してやろうと心に誓ったものである。

ハムだけが悪くない

—アマチュア無線—

よく新聞等で、無線機を無免許で使い、逮捕されている記事が見かけられる。しかし、この記事では、しばしばハム（アマチュア無線）とCB（市民無線）とを混同している。そこで、ハムとCBとの違いを説明してみたい。

まずハムは、国家試験に受かった者に免許が与えられ、免許によって電波を出せる周波数・出力等が決まっている。無線機は電波監理局の検査に合格すればよいので市販品でも自作品でも使うことができる。

これに対しCBは、免許を得るための試験は行われず、免許申請をすれば誰にでも与えられる。しかし、CBの免許はハムとは違い使う無線機に与えられろ、といってもCBを使うにはその無線機の免許申請をした者だけしか使えない。また、免許される無線機は郵政大臣が認定したものに限られている。ただ、同一人物が二台以上の無線機で免許を受けた場合、そのうちの一台を誰かに借して交信できる。ただし、その交信は免許申請をした者と無線機を借りた者としかできない。無線機を借りた者同士とはできないわけである。

ところで、ステレオ・テレビ等から交信をしているとか、テレビを見ていると画面が乱れたりすることがある。これは電波がテレビに混ざってしまうからだ。このような電波障害を起こすのは、郵政大臣の認定を受けられない違反のCB無線機を使っている場合が多いがハムの場合もある。

電波障害が起こると、「ハムが悪いのだ」「ハムさえやめればそれですむのだ」と考えてしまう人が多いしかしこれは、一方的にハムが悪いのではない。テレビ等にハムの電波が混ざらないように対策がとられていないで、障害を起こしやすいものがあるからだ。対策をとられていないで障害が起った場合は、ハムの方から障害電波がでているのではなく、ハムの電波そのものをテレビ等が受信してしまう場合が多い。そんなときは、ハムの方ではどうすることもできなくて、テレビ等に対策をとるようにしなければ直らない。だから対策をとる時は協力してもらいたいものだ。

反対にハムの方に原因があって、テレビ側ではどうすることもできない。その時は、余計な電波が出ないようにフィルターを入れたりする。だが、フィルターを入れるということは、ハムが電波を出す前に最低限行うことなのでハムの方に原因があることは少ない。

「……ステレオから声が聞えたり……」と書いたがステレオでレコードを聞いている時に障害が起こるのは、ステレオに原因があるなぜなら、レコードを聞くためのプレヤーやアンプは電波を受信するようにはなっていないはずだ。

どちらにしろ、障害が起ったならば、近くのハムに匿名ではなく、「〇〇の家ですが、×時×分頃、△△の状態で障害が起こっています」という具合に知らせてほしいものである。

いろいろと弁解がましいことを書いてきたが、ハムとCBとの違い、電波障害について正しい御理解を願いたい。すべての人の財産である電波を有効に使っていこうではないか。

アマチュア無線愛好会　藤田　秀行

（T・K）

セミが鳴いた

平田泰世

「大阪市は水の都とも煙の都ともいわれる。」と、小学校五年のはじめ、郷土地理で習った。水の都はさておき、小さいころから大阪の北郊に住んでいた私には、煙の都とはどんな状態なのかなかなかわからなかった。

太陽の光でたいせつなのは紫外線である。紫外線には殺菌作用があって、雑菌を殺してくれる。しかし空気中に煙やこまかい水滴があると、これらは紫外線を吸収してしまうので、紫外線は地上に達しない。だが、煙は人間に対する加害者となる。また、戦後、公害やスモッグがやかましくいわれ、大阪の空を注目するようになった。やがて、子どもの時代に考えていたほど、大阪の空はくもってばかりいないことを知ったものの、やはり「煙の都」に対しての先入観はなかなか消えない。大阪と聞くとこうした恐怖を覚えるようになってしまった。反射的にである。

この四月から、私は阿倍野高校に勤務するようになった。始めて勤務する大阪市内の学校である。しかし校門に続く鮮やかな緑は毎朝私を迎えてくれるし、青い空の日だってこれまで何日もあった。ある日、昼食をすませた私は、暑い日射しを避け、会議室の南の植込刻を歩いていると、突然頭の上でセミが鳴き出した。この夏始めて耳にするミンミーンの声。ひっくりかえらんばかりに私は驚ろいた。

煙の都大阪のまん中、阿倍野にも自然はあったのだもう心配はいらない。セミも鳴くし、青空だってあるんだ。この春以来の心のしこりが急にほぐれた。阿倍野高校で、この小さな自然が私を元気づけてくれたのは、昭和五十一年七月の二十七日であった。

※　※　※　※

編輯後記

今日は文化祭を行うにふさわしく、日本晴れであるかも、知れません。もし、まちがっていたら、部室まで殴り込んでください。部長が、責任をとるそうですまあ、今日、明日の文化祭を楽しんでください。

また、今日の新聞において、誤字・脱字を見つけた方も、先着五名様に、先ほど同様の処置を遠慮せずにとってください。これは、誤字・脱字を見つけさせる事と同時に、新聞をすみずみまで、読ますという、陰険かつ、しらじらしい陰謀が、裏に工作されているのです。こういう人間を阿倍高新聞部的人間といい、最近の流行の先駆者であるとも言えるでしょう。

もっとも、当新聞部では誠実・信頼などをモットーとしているので、誤字・脱字はないと自信を持って、今度の一八八号の新聞を発行しました。それだけに、この新聞を読むことができる諸君は、実に幸せであると言えるでしょう？

今回の編集後記は、今までの型を少しかえてみましたが、今後も、新聞の内容をより諸君に興味深くさせるように改革させていきますので、御意見・感想などがあれば、お近くの部員まで、どうぞ。

京都の旅路 (3)

銀閣寺
あふれる簡素な美

国鉄大阪駅から京都駅まで四〇分（二二〇円）京都駅から市バス（銀閣寺行きの）で銀閣寺前まで約四〇分（九〇円）。そこから銀閣寺の総門に続く古都らしい趣のある店が並んだ道を、五分程歩く。そして、高い生垣に囲まれた白い砂利道を通って境内に入る。

ここは、大文字山の西麓にあり、一四八二年（文明一四）に八代将軍足利義政の山荘として建てられた。当時は東山殿と呼ばれていたが、義政の死後、法名にちなんで慈照寺と改名された。銀閣寺というのはいわば俗称である。また境内はアカマツの美しい月待山を背景として、西側に銀閣、北側に東求（とうぐ）堂と本堂、中央に広い庭が位置している。

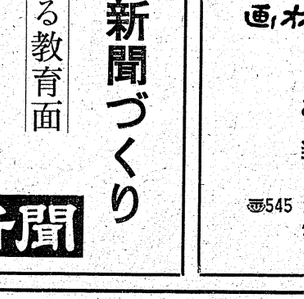
まず、一番最初に目に入ったのが銀閣（国宝）で、それは鹿苑（ろくおん）寺の金閣とはまた違って、華やかさはなく、ひっそりとした落ち着いた感じを受けた。この銀閣は重層宝形造りという質素な造りで、上層は潮音閣（観音造り）、下層は心空殿（書院造り）と名づけられている。しかし、銀閣とはいわれるものの黒々とした漆の色が残っているだけである。

また、庭の中には、銀砂灘（ぎんさだん）と向月台という白砂を盛って作られたおもしろいものがある。向月台は円錐形の上方を削り落とした富士山のような形をしており、義政が月待山に上る月を待ったといわれる月見台である。この事から月待山という名前の由来がうかがえる。一方、銀砂灘は中国の西湖の形をなぞったもので、その砂の上には筋が引かれてあり、その筋は波を表わしている。月がそこに反射して夜の庭を明るくするために作られたものらしい。そのような夜の景色もきっとすばらしいであろう。また、この二つの砂盛りは海と山を示しているとも考えられる。

それから、その砂盛りにみとれながら、自然と義政が楽しんで歩いたと思われてくる印象的な白い砂利道を、しばらく歩くと東求堂（国宝）に達した。本堂の隣にあるこの東求堂は方形をした住宅ふうの単層入母屋（いりもや）造りで、義政の持仏堂（仏像などを安置する堂）として建てられた。

銀閣寺の庭は、上下二段に分かれていて、上段は少し奥に入った東側の山腹にある発掘庭園で、お茶の水の石組と、お茶の井（茶席の時に使う義政愛着の清水）が見られる。下段は錦鏡池といわれる大きな池と前述した銀砂灘と向月台からなるこれらの色々な趣のある庭は回遊式池泉庭園と名づけられている。

緑の樹木に囲まれた建築物と広い庭の調和がよくとれ、実に古風な光景を呈している銀閣寺。その姿を見ていると、波乱に満ちた時代のものとは思えないのである。すべてが何か人の心をひきつける魅力を持っているような気がする。その閑寂あるいは簡素な美が人を感動させるからであろうか。なんとなく心がなごんでいくようだ。それに若い人たちの姿も数多く見うけられた。とにかく一度、暇があれば諸君も行ってみてはどうだろうか。きっと何か心に残るものがあることと思う。



銀閣寺全景の平面図

サカグチ書店
阿倍野区北畠2丁目2—4
TEL 661—3230
上町線北畠オリテスグ

8番ラーメン
昭和町店
阪南1丁目
TEL(621)6134

9月から新連載!!
大阪府下高校
教育シリーズ
ライバル校物語
新しい流れの中で…
一般紙にはない新聞づくり
大学受験に定評ある教育面
夕刊紙の王者!!
大阪新聞

■365日ユニークな活動を続げる専門画材店
SSD
画材 彩々堂
あらゆるデザイン用紙は当店で
〒545 大阪市阿倍野区三明町2—7—26
☎大阪(06)628—5161(代表)

バンビ総合デザイン室
写真・企画・演出全搬
撮影技師・助手・事務処理係
募集中(アルバイト可)
大阪市阿倍野区昭和町1丁目21番16号
事務所　06—621—1908
暗室　628—8631
松原店　0723—33—1015